

## ～今月の花木～



カクレミノ 隠蓑

ウコギ科・常緑小高木・関東南部～沖縄

夏に緑色の地味な花を咲かせる。日陰でも育つ樹木として有名である。



観光地の中には、水辺の植物が主役のものがあります (箱根湿生花園)

## 水辺の植物

夏に咲くスイレンやハスは、水辺で暮す植物の仲間です。植物の多い水辺は、自然が豊かな証しでもあります。訪ねれば気持ち癒される気がいたします。

現代の植物は陸上生活をしていくものが隆盛を極めていますが、植物は海の中で藻類として誕生したもの、コケ類・シダ類と進化することによって陸上に上がってゆき、花を咲かせ種子で繁殖する種子植物が誕生しました。今号で取り上げる水辺の植物とは、藻類(ワカメなど)は除き、水中に根を漂わせる、水底に根を張る、湿地に生える種子植物です。一度は陸上で生活しながら再び水中生活に戻り植物ともいえません。陸上で生活していた面影は水面に花を出すなどの特徴として残っています。

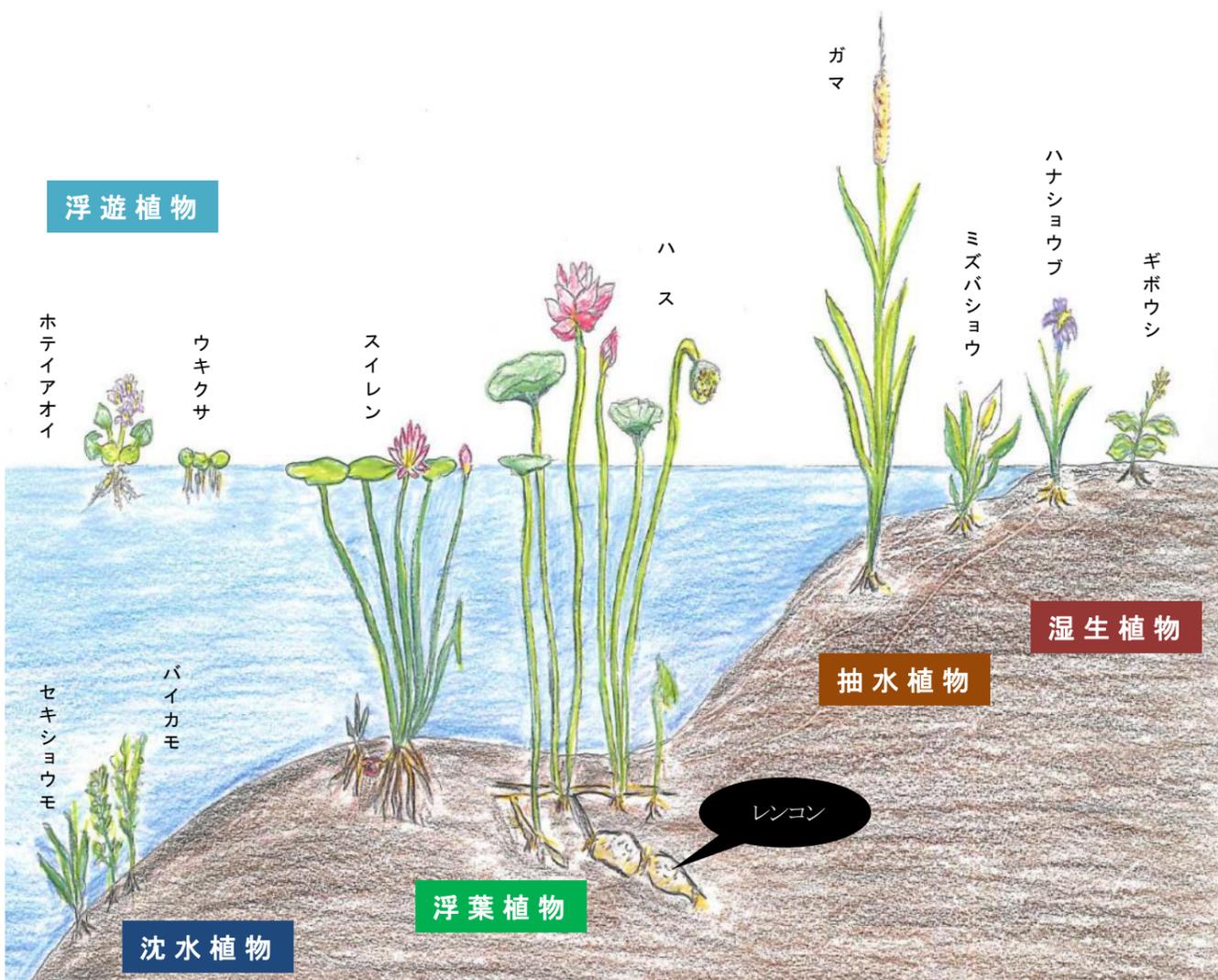
陸上生活で恵まれているのは光と空気ですが、水と温度変化に対しては水の方が有利です。多くの植物が競合する陸上よりも水辺や水中に進出して生きていく方が有利なこともあり、水辺の植物は進化の過程で水中でも生きられるよう体の仕組みを変化させ適応しています。

水の中の方が有利と進出した植物も、肝心の水辺の環境や水質の悪化により、生育地での水辺の植物は日本では衰退傾向にあります。また、一部の外来性の植物(ポタンウキクサなど)は繁殖力が旺盛で在来種の駆逐や水質環境を招くものもあり、問題になっていきます。

私たちの生活では、水辺の植物を観賞したり食用にしたりして古くより親しんできました。末永く親しめるよう、水辺の環境保護は大切です。

## 生育環境による、5つの分類

水辺の植物は自生する環境によって、5つに分類されます。世間一般的には、「浮遊植物」と「沈水植物」を水草と呼んでいるようです。また、水辺の植物＝水性植物とも言います。



**○浮遊植物**  
水面に浮いた状態で生育し、根は水中にある。繁殖旺盛なものが多い。(ウキクサ、ホテイアオイなど)

**○沈水植物**  
根が水底にあり、茎・葉が水中に沈んでいる。花を咲かせる時は水面に出るものが多い。(バイカモ、セキショウモなど)

**○浮葉植物**  
水底に根を張り、茎・葉の一部や花を水面上に浮かせる。(スイレン、ハス、アサザ、ジュンサイなど)

**○抽水植物**  
浅い水底に根を張り、茎・葉・花は水面から突き出して成長する。(ガマ、ヨシ、ショウブ、ミズバショウ、カキツバタなど)

**○湿生植物**  
湿地など、じめじめした場所を好み、抽水植物と分布域が近く、両者の区別はしにくい。地下部が湿潤環境に耐えられる。(ハナショウブ、セリ、ギボウシなど)

# スイレンとハスの違い

ぱっと見や生育環境が似ていることもあり混同されがちですが、よく観察すると違う構造をしていることが、わかります。

スイレン		ハス
水面、もしくは水面から少し高い位置で咲く。全体に細身の花卉である。花が終わると水中に沈む。	花	水面から高い位置で咲く。全体に丸みを帯びた花卉をもち、お椀のような形に咲く。中央に花托がある。花が終わると花びらは散り、花托（花をつける枝の先端）が残る。花托の中にはタネ（ハスの実）が出来る。
葉に大きな切れ込みがある。水面に浮いている葉が多く、立ち上がっても数センチである。葉に光沢があるが、撥水性はない。	葉	葉に切れ込みはなく、水面から立ち上がっている。葉に光沢はないが、撥水性がある。葉は大形になる。
茎の大部分は水中にある。茎の表面はつるつるしているが、毛のあるものもある。	茎	水面から立ち上がり、中には人間の背丈を超えるものもある。茎の表面に小さいトゲのようなものがあり、ざらざらしている。
ワサビ状の塊根を伸ばして新芽を出す。成長は遅い。レンコンにはならない。	根	成長が早く、ぐんぐん伸びる。花が終わり秋になると、地下茎の先端が肥大してレンコンになる。



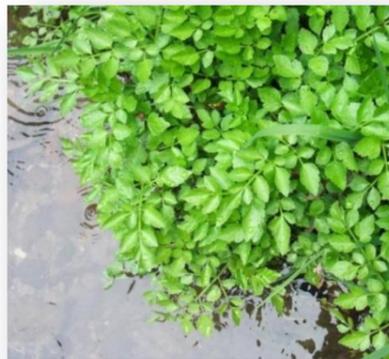
ハスの花托(上)と、ジョウロのハスロ(下)



## 食べている水辺の植物



旬：三月～五月  
料理：付け合せ、サラダ、和え物など



旬：二月～四月  
料理：お浸し、和え物、汁物、鍋など



旬：九月～十月  
料理：素焼き、てんぷら、炒め物、きんぴらなど



旬：六月～七月  
料理：酢の物、和え物、汁物など



旬：十一月～二月  
料理：煮物、和え物、揚げ物、おせち料理など



旬：十一月～一月  
料理：煮物、揚げ物、炒め物、おせち料理など



## ロータス効果

ハスの英訳は lotus(ロータス)です。ハスの葉には一面にとっても小さな突起(微細構造)が広がり、水をはじくようになっています。表面がツルツルで凹凸がない方が水をはじくイメージがありますが、ハスの葉は逆に非常に小さなデコボコのおかげで水滴をつぶすことなく、流れ落とします。

葉の表面についた水は水銀のように丸まって表面から落ちるときに小さなゴミや虫なども一緒に落とします。試しにハスの葉に水をぶっかけると、面白いように水玉が転げ落ちるのが観察できます。ハスの葉には、いわば自浄効果があります。また、サトイモの葉にも同様の効果があります。

このことは「ロータス効果」と呼ばれ、傘や衣服などにもこの構造が応用された撥水加工製品があり、私たちの生活にも役立っています。